



「URCハウス6」の施工風景。作業をしているのは建主のUさん。海建築家工房の方が事前に仮留めしてくれたネットの支持金物取付けを、休みの日や仕事の合間を縫って家族総出で行った。海野さんが手掛けたURC工法の中で建主が自ら参加したのはこの住宅が初めて。写真/建主提供

参加することで実感した住まいの大切さURCハウス6

海建築家工房が開発したURC工法は、これまで専門職以外の人間が入り込めなかったコンクリート施工を限りなく省力化したもの。一番の特徴は、コンクリート打設時に使う型枠をネットにした点で、これによって打設の時に不要な余剰水が流出、密度の濃い頑丈なコンクリートとなる。型枠のように大掛かりな設置工事も不要なため、コスト削減にもなり、セルフビルドを目指す人にはこの上ない工法である。建主夫妻は土地を購入する際、木造3階建を考えていたが、購入を決めた

土地が商業地域だったことが後で分かり急遽RC造に変更することに。同じ予算内に納めるには、URC工法との出会いなくしては不可能だった。しかし結果的に、自ら施工に参加したこと、「家を持つ」ことをさらに実感でき、今後暮らしてゆく上で、やれることはできるだけ自分達でやることになり前に感じられているとのことだ。一方、まったくの素人であるにもかかわらず、初めからすべてを自分でするためにURC工法を選択した人がいる。現在進行中の純セルフビルド「小

左階段から間1を見る。生活のなかで一番長く居るのがこの部屋だそう。階段の手すりは、現場で海建築家工房所員の方が制作した。
右間2から間3を見る。間3は現在子供部屋として使われている。その上の吹抜け部分はロフトで、家族共用の荷物置き場となっている。



沢邸」の建主・小沢さんは、フリーのイラストレーター。彼は、一昨年の夏から建築面積約165㎡のRC住宅のすべてを一人で作くり続けている。「自分達のための場所だから、自分で考えつくり出すのは自然なこと」。そんな小沢さんがURC工法を知り、その可能性の深さと自由度の高さに引かれたのは至極当然だった。「私のようなド素人でもこれだけのものができるということを知ってもらいたい」。あえて竣工予定日を決めずに無理のないペースで今も着実に作り続けている。